

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0872
施設名	松本おひさま保育園
施設所在地	江戸川区松本1-9-3
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」～身近な自然～畑づくりから収穫

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 草木に囲まれ、隣接した公園があるなど、当園の特徴を活かし、「自然」をテーマとした。園庭・隣接公園は子どもたちが日常生活で触れる身近な環境であり、草木や虫など日頃から興味を持ち、遊びの中で探索する姿が見られる。また、身近な自然を発見した際、図鑑や絵本などを用いて子ども達自身が調べたり、保育士に問いかけ、更に興味を深める姿があった。身近な自然から発見し、様々な事象に興味を深め、探究してほしいと感じこのテーマにした。

## 2. 活動スケジュール

- 1月 野菜の葉っぱの形の違いについて絵本や図鑑で観察する。
- 1月 畑への興味から畑作りへ。
- 2月 制作ワゴンを使用し、廃材遊びを深める。様々な素材を探究し、活動する。
- 3月 廃材でじゃがいも作り(作物)。  
園庭遊びで畑でじゃがいも畑を作り、じゃがいも芋掘りを体験する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
砂場を畑へと環境整備。砂場拡張。  
制作ワゴンの設置し、子ども達自身がいろいろな素材を自由に使えるよう設定。  
廃材、ビニールテープ、ガムテープ、画用紙、ストロー、新聞紙などの素材の用意。  
子ども達が自由に調べられるよう手に取りやすい位置に図鑑・絵本を設置。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- |    |  |
|----|--|
| 1月 | 食育の一環で野菜の葉っぱの形の違いについて絵本や図鑑で観察する。                   |
| 1月 | 絵本から畑への興味が沸き、子ども達の声から収穫ごっこへ発展。畑作りへ。                |
| 2月 | 制作ワゴンを使用し、廃材遊びを深める。様々な素材を探究し、活動する。                 |
| 3月 | 廃材でじゃがいも作り（作物）。<br>園庭遊びで畑でじゃがいも畑を作り、じゃがいも芋掘りを体験する。 |

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

○葉っぱに興味を持つ子がいた為、食育も兼ねて、絵本や図鑑を活用して身近な食材（根菜）の葉っぱの形の違いについて話した。その際、子ども達から「野菜掘りごっこがしたい」「砂場でやったらみんなで出来て楽しそう」との声があがり作物作りへ発展。廃材で作物を作り、廃材遊びが浸透していくと、素材によって強度が違う事にも気付き始める。「土の中に入れるから紙は壊れちゃうよね」「じゃがいもの色ってどんな色かな」などと友達や保育士と図鑑を見ては材料と見比べながら考えていた。

ガムテープを見つけると「この色ジャガイモに似ている」「新聞紙に巻きつけたらいいかもしれない!」と好きな大きさに丸めた新聞紙に布ガムテープを巻きつけ始める。ツルの作り方に悩む姿があり、ビニールテープで編んだらどうかな、と提案すると近くにいた子が「三つ編み出来るよ」とツルに見立てて編んで完成。実際に出来た大きさや形の違うジャガイモを再び図鑑と見比べて「このジャガイモはこの種類に似ている」など品種によって形や色、大きさが違う事に気付く。畑でのじゃがいも掘りでは、友達と協力しながら埋めたり、引っ張ったりを楽しみながらジャガイモの収穫を考察できた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

自然のテーマから収穫ごっこへ展開する際、昨年は部屋の小さなスペースで畑を作った為、職員間では大きな畑の発想が難しかったが、子ども達の声から砂場の提案があり、砂場の改修、皆で収穫ごっこへと繋がった。子どもの発想の豊かさを今後も大切にしていきたいと職員間で改めて振り返った。本格的な廃材遊びにも繋がり子ども達が自分たちでイメージした物を作り上げ、それを使ってまた遊びが広がっていった。自然を通して友達と協力し合い、相談し合う中で相手の考えを聞き、考えを受け入れる、考えを提案する等の関わりも増え、改めて子ども達の遊びの大切さを実感した。子ども達のわくわくの種をこれからも大切にしていきたい。